

学校運営計画（4月）					評価 （3月）
学校運営方針	校訓「正大」「剛毅」「優美」を身に付け、自己探求し、自己実現のために努力する生徒の育成				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
[成果] ・総合的な探究の時間の構築 ・観点別評価の策定 ・コミュニケーション能力育成のための探究活動の充実 ・様々な情報の共有化と組織的な対応 ・生徒会行事及び活動の活性化 [課題] ・「わかる」ことを実感し、「できる」という達成感が得られる態度の育成 ・様々な活動を通じた、自己肯定感の涵養 ・新制度への対応とキャリア教育の充実	生徒の学習意欲と学力の向上	「わかる授業」のための授業改善に取り組み、学び直しや主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習を通じて、生徒に基礎学力を定着させる。「できる授業」を目指し、課題や家庭学習を通じて既習事項を繰り返すことで、「できる」レベルまで学力を引き上げると同時に、主体的に学ぶ意欲・態度を育てる。			
	規範意識の涵養、部活動、生徒会活動の活性化、および、心の教育の推進	規範意識の涵養と礼儀の大切さを教え、道徳的实践力を培う。部活動や生徒会活動をさらに活性化し、学校行事と絡めた7Hearts教育や成功体験の蓄積により自己肯定感を高める。教育活動全体を通じて、自他の生命を尊重する精神、人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を育成する。			
	キャリア教育の充実	3年間を通じた系統的・探求的なキャリア教育を推進し、次代に求められる新しい学びの力や志の育成を図ることにより、生きる力を身に付けさせ、社会人として自立していくことができる人物を育成する。また活動履歴の蓄積や振り返りを通して、新しい大学入試制度に対応した指導を心がけ、自らの有為さを自覚し発信できる生徒を育成する。			
	広報活動、地域貢献活動の拡充（開かれた学校づくり）	本校の魅力ある教育活動や成果を積極的、かつ効果的に発信することで地域からの信頼を向上させるとともに、本校入学志願者確保につなげる。地域との交流を進め、地域行事への参加、地域ボランティア等を積極的に行い、生徒の発刺とした姿を示していくなどの開かれた学校づくりに努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
教育推進部 (教務課) (研修課)	学力向上 （「わかる授業」から「できる授業」へのレベルの向上）	「できる授業」を目指した「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業実践（研修課と連携）			
		スタディーサポートの目標値の設定・検証（8月・3月）			
		既習事項の反復を目指した週課題の実施と学習時間調査（年5回）による検証			
	新学習指導要領における教育課程の編成と観点別評価の推進	教育課程検討委員会の設置（4月）とその定期的な実施			
		各学科の教育目標の見直しと教育課程の編成			
		令和4年度入学生に向けた観点別評価の段階的实施			
	「総合的な探究の時間」と教科・科目の連動	「総合的な探究の時間」で育成する探究のプロセス（課題設定、情報収集・分析、まとめ・表現）を各教科・科目内でも実態に応じて実施する体制の整備			
		令和2年度総探⇄教科リンクシート（仮称）を作成（A3判1枚程度）（キャリア企画課・総探推進委員会と連携）			
	校内研修及び校外研修の充実	他分掌との連携を強化し、本校の教育課程に即した職員研修を年間6回実施する。			
		校外研修や異校種授業参観などを広報し、参加の促進を促す。			
		初任者に対して、職員の協力体制による充実したプログラムを構築する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
教育推進部 (教務課) (研修課)	授業改善の促進	本校のアクティブ・ラーニング目標を設定し、全職員の共通理解を図る。			
		本校のアクティブ・ラーニング目標に沿った研究授業を複数教科において実施する。			
		職員研修において観点別評価をテーマにした研修を計画する。			
		授業参観月間や授業アンケート月間を設定し、授業改善に取り組む。			
		教務課と連携し、効果的な研究授業及び授業参観を実施する。公開授業を設定し、学校評議員、中学校教員が参観できる機会を設ける。			
		教務課と連携し、学年集会を通じて、福島高校授業規律7つの約束「きもちにふしめ」の実践を喚起する。			
図書館利用の活性化	図書館だよりを定期的に発行し、図書館利用を促す。合わせて図書館来館の契機となる行事の企画・実施に取り組む。				
	図書委員会の活動を充実させるため、外部研修会への参加や広報誌の作成、読書週間の取り組み等を積極的に取り組む。				
	アクティブ・ラーニングを促進させることで、図書館利用の活性化を図る。				
キャリア教育部 (進路指導課) (キャリア企画課)	第一志望での進路実現	新制度入試に対応した課外授業の充実			
		学校型選抜入試を積極的に利用し、学年と連携しながら指導を充実させる。			
		公務員の合格者を増大させるために、専門学校との連携を緊密に図る。			
	キャリア教育の推進	外部講師を招いた講演会等を適宜実施し、進路意識の向上を図る。			
		キャリアパスポートを積極的に利用し、自己を見つめさせるとともに、自己の進路を考えさせる。			
		ボランティア活動、インターンシップ等の体験活動に積極的に参加させる。			
	「総合的な学習の時間」の充実と「総合的な探究の時間」のさらなる飛躍と継承	3年生の「総合的な学習の時間」については、これまでの蓄積をもとにしながら学年と連携を取り、さらなる充実を図る。			
		1・2年生で先行実施される「総合的な探究の時間」は、推進委員会を通じて早めの計画立案、密な連絡調整を行う。			
		外部機関との連携を密に行い、探究活動の充実につなげる。			
	進路情報の取集と発信	大学入試改革等の進路情報を収集し、生徒や保護者に向けて情報を発信する。			
進路実績や進路関係の行事等の内容を、学校HPを活用して生徒や保護者、地域に向けて発信する。					
生徒の活動記録を蓄積し、ポートフォリオ化できるような仕組みを検討する。					
生徒育成部 (生徒指導課) (健康管理課)	交通安全教育及び指導の徹底化による事故防止	登下校指導の実施。交通マナーの意識を向上させ、交通事故0を目指す。			
		安全教育講習会やバイク実技講習会を実施し、安全に関する意識の向上を図る。			
	部活動・生徒会活動の活発化	部活動顧問会を実施して、顧問の責任を明確にする。顧問は生徒の能力を最大限に発揮させる指導を行い、高い競技実績をあげる。			
		各種委員会の活動の具体化・活性化を図る。職員による指導を充実する。リーダーの発掘・育成にも力を入れる。			
		体育大会・文化発表会等の内容の再検討を行う			
	問題行動・いじめの撲滅	いじめアンケートの実施、情報の共有化			
SNSの正しい使用について講習会を開く					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒育成部 (生徒指導課) (健康管理課)	生徒および職員の心身の健康の保持増進を図る。 (生徒の健康管理、保健教育・保健指導を行う)	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒の身体状況の基礎的な把握を行う。			
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。			
		保健委員会及び美化委員会の活性化及び自己肯定感・有用感を高める活動を行う。			
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行う。			
		性と心の相談事業（1年生対象に性の講演会）を実施する。			
	学校管理下での事故防止に努める。 (安心・安全な校内学習環境の整備・充実を図る)	生徒保健委員による救急法（含む熱中症対策）講演会を実施し、部活動や体育大会等の体育的行事における安全対策（熱中症予防対策等）を充実させる。			
		生徒美化委員を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。			
		防災避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。			
		学期に1回の校内安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに担当部署に連絡・働きかけを行う。			
		危機管理マニュアルを作成・配布し、職員に周知徹底し、危機管理体制を整える。			
	担任・学年・教育相談委員会で連携・協力体制の発展を図る。 (長期欠席・中途退学等の防止を図るとともに、特別支援等の在り方を考える)	様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。			
		生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。			
		3日連続欠席者に対して、実態に応じて担任・学年団により家庭訪問を実施する。			
		SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。			
		修学支援・特別支援コーディネーターによる業務を支援する。			
第1学年	主体的な学習態度の醸成	「授業オリエンテーション」を通して、授業及び家庭での学び方について理解させ、実践につなげる。			
		日頃から学年団で学び合い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。			
		手帳の活用や週課題の指導を通して、家庭学習時間60分以上を継続させる。			
	基本的生活習慣の確立	心身の健康に努めさせ、年間の皆勤者80%以上を目指す。			
		各自に掃除箇所・役割を明確に示し、責任をもって掃除に取り組ませる。			
		福島高校生としての自覚と誇りを持たせ、それに相応しい服装・所作ができるように指導する。			
	進路目標の明確化	年間5回以上個人面談を実施し、進路意識を高める。			
		進路について深く考える時間を設定し、その上で必要な情報提供を行う。			
		学年集会や学年終礼を定期的に行い、学年団の教員が輪番で進路に係る講話を行う。			
	学年団のチーム化	目標と価値観を共有して、協働的な教育活動を行う。			
		学期に1度の担任・副担任を入れ替えた終礼を実施して、学年団全員による生徒指導体制の強化を図る。			
		学年団個々の資質能力に応じた役割を果たしつつ、互いに学び合い成長する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価評価（3月）			次年度の主な課題	
第2学年	当たり前のことを当たり前に行い続けることのできる生徒の育成。	挨拶の励行、5分前行動、正しい着装、清掃活動を一生懸命取り組むなど「当たり前」のことをきちんと行うよう指導し、学校の中間学年として1年生の見本となるよう指導する。					
		部活動・生徒会活動に一生懸命取り組ませ、帰属意識・自己肯定感を高めるような指導を部活動顧問および生徒会担当者と連携して行う。					
		年間に5回、HR活動の時間を通して「7Hearts教育」を実施し、道徳力実践力を高めるとともに、学校行事などにも生かせるよう指導する。					
		皆勤者80名以上、2ヶ年皆勤65名以上を目指す。					
	学習習慣を確立し、学びの質の向上を図る。	各教科と連携し、小テスト・週課題などで学習時間100分以上（平日90分以上、休日180分以上）を目指すとともに、週課題などの提出物を必ず提出させる。					
		手帳を用いて計画的に行動することのできる生徒の育成に努めるとともに、日々の学習計画・学習時間の管理を行う。（学びのポートフォリオの作成）					
		考査前の期間（1週間前）に「質問教室」を実施し、成績不振者の減少を図るとともに学力向上に努める。					
		スタディーサポートなどの外部模試を利用し、生徒の学力および学習状況を把握するとともに、それらを活用した面談・検討会を実施し生徒の学力向上につなげる。					
	生徒の進路目標を決定する。	HR活動（進路学習）を通して、自らの進路実現に向けた指導を行うとともに、担任との2者面談を学期に2回以上行い、生徒の進路目標を明確に定める。					
		進学希望者はオープンキャンパス、就職希望者はインターンシップに参加させ、進路決定の礎とする。					
		総合的な探究の時間の課題研究を通して、社会に求められている新しい学びの力を育成するとともに、地域企業・大学と連携し生徒の地域貢献の志を育む。					
	何事にも積極的に取り組む生徒を育成する。	学校行事の意義や目的を、7Heartsと関連させて理解させるとともに、それらに意欲を持って積極的に参加させ、リーダーシップのとれる生徒を育成する。					
中堅学年として学校行事・生徒会活動・部活動等に積極的に参加することにより、リーダーとしての自覚を持たせるとともに、修学旅行において集団行動の完成を目指す。							
学年のミドルリーダーを育成し、週に1回学年終礼を行い、学年の団結力を高める。							
2学年団として、一致団結して生徒を支援・指導していく。	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の指導を行う。						
	学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりを行う。						
第3学年	生徒の進路希望を100%実現する。	総合的な学習の時間などを活用し、希望進路別の進路指導を懇切丁寧に行う。					
		授業・課外・土曜講座等のあらゆる場面で、進路指導を意識した教科指導を徹底する。					
		家庭学習時間120分以上を毎日継続できるように指導する。					
		国公立大学5名、私立大学（西南学院大学・福岡大学など）15名以上の合格を達成する。					
	主体的に行動できる生徒を育成する。	挨拶の励行、時間の厳守（5分前行動）、服装を整える、清掃をきちんとするなど基本的なことを継続して指導し、下級生の模範となるようにする。					
		学校行事や生徒会活動・部活動を通じて、後輩を牽引するリーダーを育成する。					
		皆勤者90名以上を達成する。					
	3学年団として、一致団結して生徒を支援・指導していく。	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の指導をしていく。					
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価評価（3月）			次年度の主な課題
企画広報課	各分掌と連携した円滑な学校行事の遂行	年間行事予定をもとに各分掌と連携し、月ごとの行事予定を作成し、月末までに翌月・翌々月までの行事予定表を掲示する。				
		各行事を早期に企画・立案し、各分掌・係などと調整を図り、遺漏なく遂行できるようにする。				
		課内で各行事の責任者を設定し、役割分担を明確にする。				
	広報活動の充実	ホームページを定期的に更新し、魅力ある内容になるように工夫する。				
		学校のアピールポイント及びイメージが伝わる学校案内を作成する。				
		学校通信「もちの木」を定期的に発行する。				
		中学校訪問を定期的に行い、生徒に関わる情報交換を行い、中学校との連携を深めるとともに、学校の特色についてアピールする。				
		中学校PTAの来校を受け入れ、本校教育活動への理解と浸透を図る。				
		中学生に対する学校説明会に参加し、本校教育活動を中学生にアピールする。				
	職員間の親睦	親和会行事の計画・実施を円滑に行い、職員全体の親睦を図る。				
		PTAソフトバレーボール大会等、PTA関連行事への協力を図る。				
		互助会行事への参加の呼びかけを行うなど、福利厚生の実施を図る。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
総合ビジネス科	基礎学力を定着させ、高度な資格取得への意欲を喚起し、進路目標の実現をはかる。	生徒の実態に即した授業改善に努めるとともに、課外授業や放課後等を活用して個に応じた指導の徹底を図る。			
		ICTの活用等による効果的指導を行い、簿記会計や情報分野の科目については習熟度別授業を実施する。			
		日商簿記検定など高度な資格取得への挑戦を促し、進路指導充実のため小論文指導や面接指導等を早い時期から実施する。			
	地域社会の変化に主体的対応できる態度と能力を育成する。	言葉遣いやビジネスマナー等を身につける指導を徹底し、その重要性を考える機会を設定する。【社会人特別講師招聘事業（1・3年生対象）】			
		地域の商工会議所や大学及び関連企業と連携をとり、地域経済の現状やビジネスに対する心構えを学ぶ機会を設定する。【大学訪問・地域産業連携事業（1年生、2年生各学年1回）】			
	総合ビジネス科の広報活動の充実を図る。	各学年の学習活動や状況を「ビジネス科ニュース」に記載し、地域の中学校および生徒や保護者等へ配布する。			
中学校への出前授業や進路説明会等において、総合ビジネス科の学習内容について生徒の声を反映させた丁寧な説明を行う。					
生活デザイン科	授業を生かした資格取得やコンクールへの応募を意欲的に挑戦させる。	高等学校技術検定（食物・被服）において3級を全員合格させ、2級に全員挑戦させる。			
		3つのコースで学んだことを生かして高等学校技術検定（食物・被服）1級に挑戦させ、2冠王表彰者の増加を目指す。			
		サービス接遇検定・ビジネス文書検定など職業において必要とされる資格取得に挑戦させる。			
		デザイン画や調理のコンクールへ積極的に応募させ、県大会・全国大会レベルで受賞できるよう指導を行う。			
	進路目標につながるよう上級学校との連携及び社会人招聘事業を実施する。	生活産業で活躍する卒業生による進路講話を土曜講座において全学年で実施する。			
		進路目標・コース選択に繋がるよう1年生の2学期に上級学校訪問を行う。			
		社会人特別講師招聘事業や未来を切り拓く人材育成事業を活用し、コースの特色化を図る。			
	生活デザイン科の特性を生かし、地域社会へ貢献させ、その実績を広報活動に繋げる。	フードデザインコースにおいて、製菓のオリジナル商品開発を行う。また、地域のイベントや事業で生徒が開発した商品を販売し、生活デザイン科の広報活動に努める。			
		ヒューマンサービスコースにおいて、保育所実習や保育所交流を行い、保育分野で地域と交流を図りながら、現場実習を行わせる。実習を通して職業観を培い、進路決定に繋げる。			
ファッションデザインコースにおいて広川町絆祭ファッションショーに参加し、衣装を地域に披露する。また、中学生体験入学においてファッションショーを行い、魅力ある広報活動を行う。					